

キャッシュフロー創出力が高い企業の選別に注力

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)

愛称 ザ・ディスカバリー

追加型投信/内外/株式

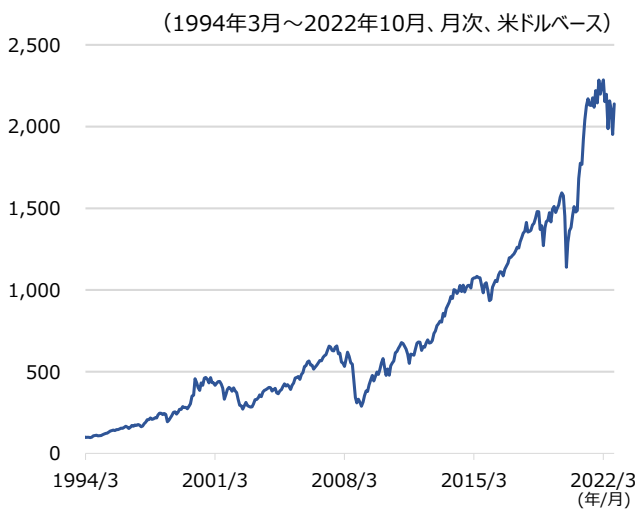
割安感があり、成長性に優れるポートフォリオを実現

当ファンドが主要投資対象としている「フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)」(以下、主要投資対象ファンド)では、**市場の見誤りに着目し、本来の企業価値が過小評価されている企業を積極的に組み入れ、過大評価されている銘柄を回避する運用**を目指しています。

2022年9月末時点の参考ファンド^(*)と米国の中型株・大型株^(注1)の1株当たり利益(EPS)成長率と株価収益率(PER)を見てみると(図表2)、

- ① 中型株と大型株ではEPS成長率はそれほど変わらない一方、PERは中型株の方が明確に低くなっています。つまり、概ね同等の利益成長率であるものの、中型株の株価の方が大型株よりも割安であることが分かります。
- ② 参考ファンドについては、**中型株・大型株よりも高いEPS成長率を誇りながら、PERは最も低位**に留まっています。参考ファンドでは特に足元においてバリュエーションを意識した運用を徹底しており、割安感があり、成長性に優れるポートフォリオを実現しています。

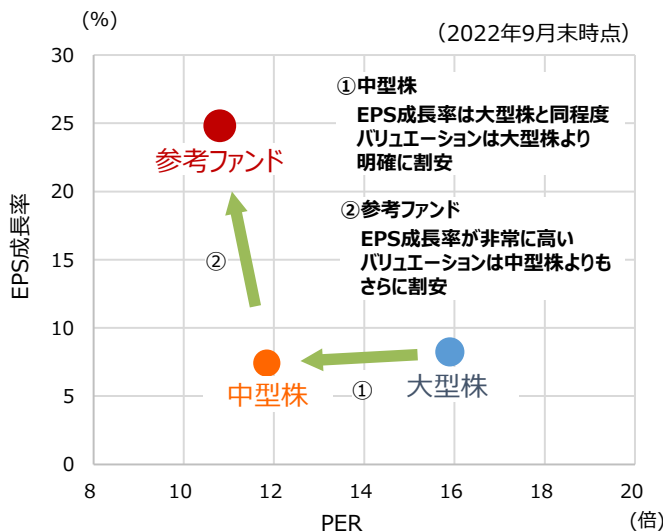
図表1. 参考ファンドのパフォーマンス(設定来)



※1994年3月29日を100として指数化。トータルリターンベース。

(出所)フィデリティ投信のデータを基に岡三アセットマネジメント作成

図表2. EPS成長率とPERの比較



(注1) 中型株はS&P中型株400種指数、大型株はS&P500種指数。
EPS成長率およびPERは、IBES 1年先予想ベース。

(出所) フィデリティ投信作成データ

(*) 主要投資対象ファンドと同様の運用担当者・投資哲学・運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「Fidelity® Mid-Cap Stock Fund」のデータです。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グローバル・コア株式マザーファンド」のデータではありません。

—本資料に関してご留意いただきたい事項—

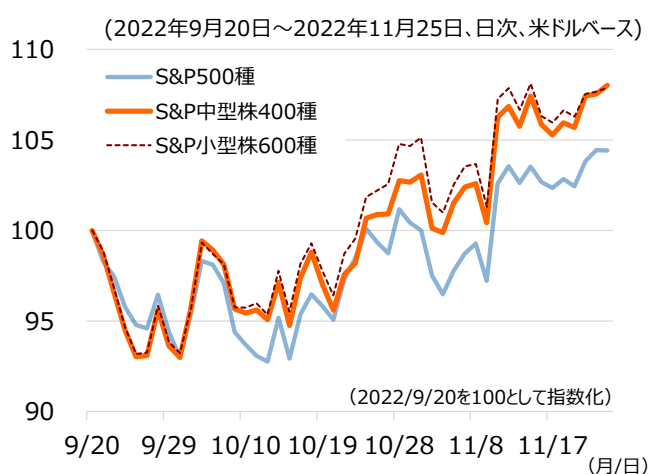
■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

足元の投資環境

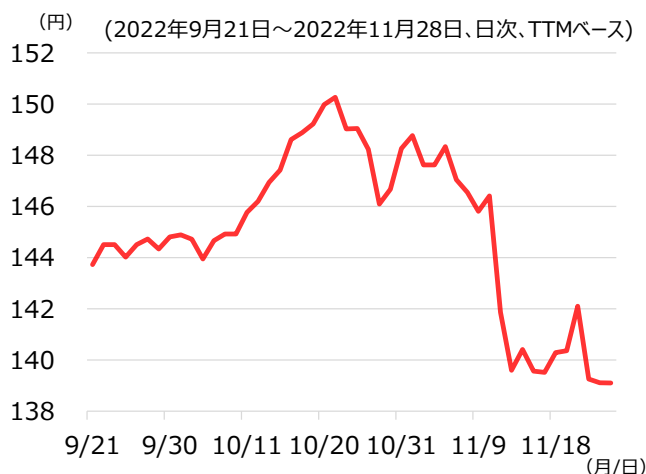
<株式市場と為替市場の動き>

世界主要国の株式市場は11月に入ってから反発する展開になっています。当ファンドの主要投資先である米国株式市場では、10月の米消費者物価指数(CPI)の上昇率が市場予想を下回り、米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げペースが減速するとの期待が高まりました。一方、為替市場(米ドル/円)は、CPI発表をきっかけに米国金利が大きく低下したことを受けて、米ドルが対円で急落する動きとなりました。(図表3、4)

図表3. 米国主要株価指数の推移



図表4. 米ドル/円の推移



(図表3、4の出所) Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

当面の投資環境の見通し・運用方針

引き続き世界の株式市場では、米国をはじめとする世界の主要国がインフレ抑制のために、いつどの水準まで利上げを続けるか、景気減速がどの程度深刻になるかという2点が焦点になっていると考えられます。

足元では、インフレや利上げの長期化を示唆する材料が多くみられることから、今後はインフレ率や金利の高止まりが続くのではないかと考えます。また、企業の借り入れコストの増大が見込まれ、バランスシートの健全性が試される局面が続くとみています。

このような環境下、市場の短期的な動きに惑わされず、長期的な企業ファンダメンタルズに照らして、上昇余地が大きいと判断できる株価水準で投資をすることがこれまで以上に求められます。**足元のような投資環境では特に、バリュエーションとキャッシュフロー創出力という2点を重視して銘柄を分析することが重要と考えます。**ボラティリティが高まっている今のような局面は、市場が見誤っている有望な銘柄に割安な株価水準で投資をする好機となります。このような好機を活かすため、**インフレへの耐性があり、支出をコントロールでき、結果として将来のキャッシュフロー創出力が高いと考えられる企業を見出すことに注力しています。**

—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

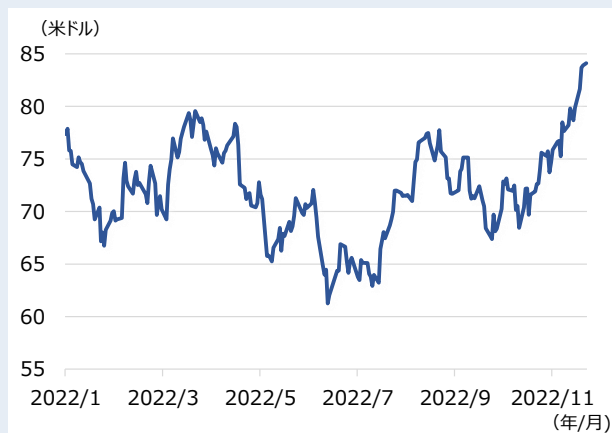
不安定な相場環境下での注目銘柄 【エイコム】

現在注目している銘柄の一つが、エイコムです。同社はインフラ建設プロジェクトに関する計画から施設管理まで、全般的なコンサルティングサービスをグローバルに提供する米国企業で、**環境に配慮したインフラの推進**など**ESG(環境・社会・企業統治)への積極的な取り組み**も注目されています。同社の差別化されたサービスに対しては今後も底堅い需要が期待でき、特に米国では政府が**老朽化したインフラの改修に注力**していることも、同社のビジネスの追い風になると期待されます。

世界株式^(注2)が年初来で約12.4%の下落となる中(11月25日現在)、同社の株価は堅実なビジネスなどが評価され、同期間で約8.7%上昇しています。不安定な相場環境だからこそ、徹底したボトム・アップ・リサーチに基づいて優れた銘柄を発掘することが肝要と考えます。

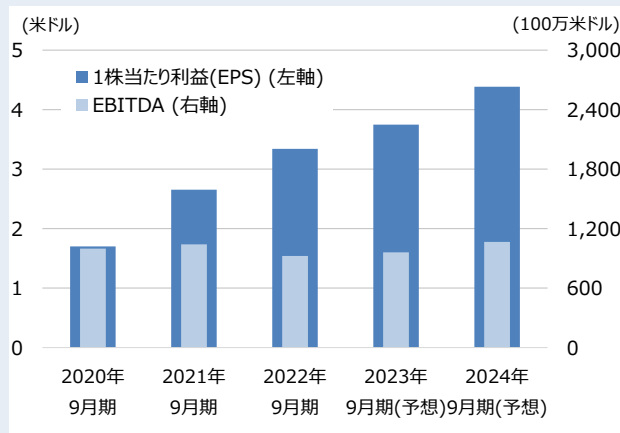
図表5. エイコムの株価推移

(2022年1月3日～2022年11月25日、日次)



図表6. エイコムのEPS、EBITDAの推移

(2020年～2024年、年次、予想を含む)



(注2) MSCIワールド指数(ネット・トータルリターン、現地通貨建て、米ドルベース)を指します。
MSCI指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。
またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

※EBITDAとは

国際的に企業の収益力やキャッシュフローの創出力を比較したり評価する際に用いられる財務分析の指標です。
(EBITDA=税引前当期純利益+特別損益+支払利息+減価償却費)

(図表5、6の出所) Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

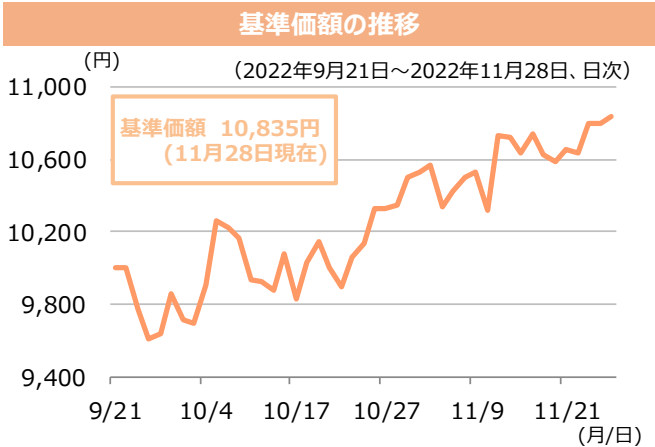
※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

—本資料に関してご留意いただきたい事項—

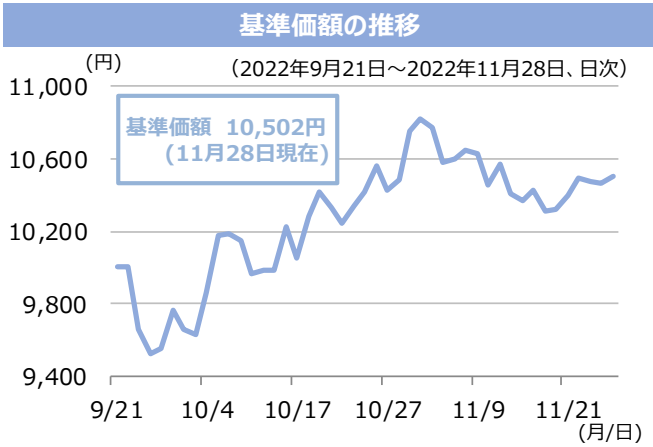
■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

運用状況（作成基準日 2022年11月28日）

<為替ヘッジあり>



<為替ヘッジなし>



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ	
基準価額	10,835円
残存元本	1,333百万口
純資産総額	1,444百万円
ポートフォリオ構成比率	
フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)	98.0%
マネー・インベストメント・マザーファンドⅡ	0.2%
短期金融商品その他	1.8%

ファンドデータ	
基準価額	10,502円
残存元本	7,486百万口
純資産総額	7,862百万円
ポートフォリオ構成比率	
フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)	97.6%
マネー・インベストメント・マザーファンドⅡ	0.2%
短期金融商品その他	2.2%

※上記の各構成比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

(作成 : 運用本部)

—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
 ■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンドに関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
- ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「金利リスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。

※ 基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
 - 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
 - 運用管理費用（信託報酬）
 - ：純資産総額×年率1.265%（税抜1.15%）
 - 運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
 - ：純資産総額×年率1.98%（税抜1.80%）程度
 - 実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料
 - 監査費用：純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等を間接的にご負担いただきます。
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
愛称 ザ・ディスカバリー
追加型投信/内外/株式

販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○			
JIA証券株式会社	関東財務局長(金商)第2444号	○			○
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)